第一次帝国主義戦争―所謂欧州大戦に於て世界各国の全労働大衆は戦争のために支配階級からギマンされて居った事を知った時、極度の反抗とゾウオにもへ立ち、革命的状勢を形成して、資本主義の根本をゆり動かし、各国が革命の危機にさらされた時、世界帝国主義ブルヂョアーヂは恐怖の絶息にあつて、こうした間に、彼等資本家地主は自己の支配的地位永続保持のため、ダラ幹共をベイゾして国際的な想援により、労働者をギマンとカイジュウするために作ったのが此の国際労働会議である。かゝる設立の動機を知り、然も今日が日ましにその反動性を発らはし、支配階級の私腹をこやす事のみ計画して居る。

此れは労働者の手によつて徹底的に粉砕しなければならない。然も国際労働会議の幹部トーマ、ドーズ及びメンデルス等は帝国主義世界戦争のさいには各々の利益を犠牲にして自国の安全達のために労働者に熱湯をあびせかけた国際的大裏切者であり、国際的ダラ幹である。

今また支配階級は会議の書記長メレデルスを招致し、右翼ダラ幹共は勿論の事、中間派のダラ幹共も買収し、左右翼結成をもくろみ、労働者階級の解放を永久のカナタに追いやらんとして居る。

我々はこうした国際労働会議の本質をまざまざ明するのと同時に、支配階級並に一切のダラ幹の陰謀を全労働者大衆に徹底的にバクロし、断呼として国際労働会議の絶対否認、ベンデルス排撃の大衆運動を全国的にまき起さなければならない。

犠牲者救援運動に関する件

斗争の中から犠牲者が生れる。斗争の激化につれて犠牲者の数も増大するのは必然の事で、犠牲者を出す事なく勝利を斗い取る事は不可能である。だから犠牲者救援運動を徹底的にまき起す事の出来ない様な労働組合は、左翼労働組合ではない。我々はストライキ、其他斗争より出る犠牲者及び其の家族の救援のために斗はなければならない。

実行方法　あらゆる集会に救援事業のアヂプロを行ふ
組合内に救援部を設置する事

次期大会決定に関する件

規約第十五條により次期大会を決定したいと思ひます　一九三二、五月として期日は執行委員会に一任したいと思ひます